2025年
春季防災特別号
2025年3月21日発行

江東総支部ニュース

KOMEITO 公明党

発行責任者：公明党江東総支部／住所：江東区東陽3-14-10-1F 電話：3644-6308 http://www.kotokomei.ne.jp/

災害に強い江東区の推進力
防災対策の細田いさむ

細田いさむは区議会議員時代から防災対策に全力で取り組み、災害に強い江東区の推進力となってきました。
都議会議員となった今も、より広い視野で防災政策を推進し、堤防の強化や避難体制の整備、最新技術を活用した災害対策の導入など、具体的な施策を次々と実現。その施策の一端を細田いさむ総支部長に伺ってみました。

待ったなしの、防災・地震対策

Q 埼玉県八潮市で起こった、道路陥没事故！江東区は大丈夫ですか？

江東区では17年前から調査を開始

私が江東区議時代の2008年から、区道の地下空洞化調査を開始し、**3年毎に定期検査**も行っています。レーダー探査車も導入済みで、**毎年50kmに渡り調査**し、空洞が見つかれば、その都度、緊急補修の修繕を行っています。今回の八潮市の被害を受け、管路やマンホールなどの緊急調査も実施しています。

▲レーダー探査車の一例

Q 災害発生時に避難所として利用する区内の学校体育館は真夏でも快適ですか？

エアコン導入率100%を達成しました

学校体育館のエアコンは夏場の熱中症対策になるだけでなく、災害時に避難場所として使用する際に、快適に過ごせる空間として役立てることができます。2019年の台風19号の際、区内の体育館に避難された方から「**体育館にエアコンが設置されていて本当に助かった**」と、お声をいただくことができました。

Q 能登半島地震では200棟以上が火災で消失 木造家屋が密集する砂町銀座周辺は大丈夫ですか?

不燃化特区地域として推進しました

砂町銀座周辺は木造家屋が密集し、災害時に火災の延焼が広範囲に及ぶリスクを抱えています。こうした中、都議会公明党と区議会公明党の連携により、都が「不燃化特区」を指定し、延焼防止の家屋の建て替え助成を行う制度がスタート。専門家による無料相談ができる**東京23区初の不燃化相談ステーション**の開設や**小名木川防災公園**の開園など、地域の安全・安心対策として喜ばれています。

▲不燃化相談ステーション

知っておきたい区政情報

最新の「江東区政世論調査」によると、『力を入れてほしい施策』の**第1位が、「防災対策」**でした。

1位 防災対策 44.7%
2位 子育て支援 27.3%
3位 高齢者支援 24.4%

江東区政世論調査（令和5年12月発行）PDF⬆

そのほか、細田いさむは多岐にわたるの防災対策に取り組んでいます（一部をご紹介）

建物の耐震化の推進

2000年以前の木造住宅の耐震化にも助成。また、令和7年度より、老朽建築物の除却助成の金額が倍増され100万円を助成に。

非常用発電機の配備

災害に伴う停電時にも安心して避難できる環境を確保するため、全区立小中学校など計72カ所の体育館に非常用発電機の設置を推進。

無電柱化の推進

無電柱化とは、災害時に倒壊などで電柱が道を防ぐことがないよう電線を地下に埋設すること。現在「江東区無電柱化推進計画」を策定し推進中。

気候変動を踏まえた、水害対策

ゲリラ豪雨で浸水被害が出ないよう 75(ミリ/時)の豪雨に対応しました

東京都では、これまでの計画降雨（時間50ミリ降雨）を想定しての排水対策でしたが、昨今のゲリラ豪雨では浸水被害が頻発。浸水被害対策として江東区の地下に、「25mプール180個分の貯水槽（江東幹線）」の構築を推進し、**75（ミリ/時）の降雨**でも浸水被害が起こらないように対応しました。

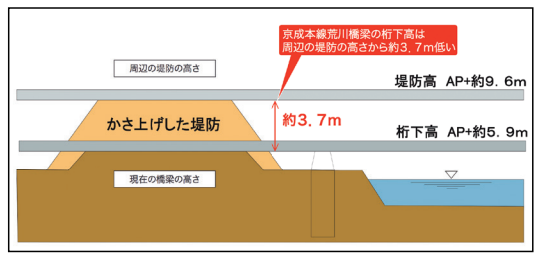
▲東大島幹線・南大島幹線工事

想定外の豪雨でも氾濫しないよう 荒川上流部に調節池を拡充します

国と連携し、荒川上流部に「氾濫対策のための荒川調節池」を拡充します（2030年度の完成予定）。既存の荒川第一調節池(容量3900万立方メートル）に加え、川上に新たに荒川第二調節池、荒川第三調節池の2箇所を拡充（容量は9000万立方メートル）。**約2倍以上の水量がコントロール可能**となり、大型台風などによる増水時に対応。ただし、全て完成するまであと5年近くかかるため、昨今の水害リスクに備え、完成前でも段階的に運用できるよう、公明党の提案で実現しています。

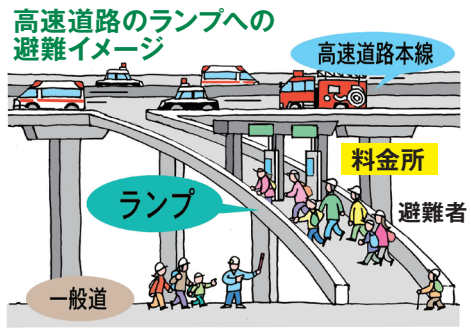
万一の荒川氾濫から京成本線を守る 荒川橋梁の越水対策を推進しました

荒川の堤防は徐々に地盤沈下しているため、かさ上げが行われてきました。1999年には押上線の橋梁の架け替えが完了していますが、京成本線の橋梁周辺はそのままであったため、本来の堤防高を下回る位置を線路が通る状態で、2019年の台風19号では橋げたスレスレまで荒川の水面が迫る事態になりました（下記写真）。今回の架け替えは、両岸の堤防をかさ上げし、そこに新たな橋梁を架けます。橋桁は現在の橋より**約3.7m高くなります**。工事は約16年間を経て、2037年完成を予定しています。



大規模水害の発生時は 都営住宅へ、高速道路へ避難可能に

江東区議会公明党は都と連携して、水害時の緊急避難場所として**都営住宅の上層階の空き室活用**の要望が実った。緊急避難場所に指定されたのは、区内にある荒川沿いの都営住宅。区が浸水被害発生の恐れがあると判断した際に、都が空き室を無償で一時提供するもの。また、江東5区(墨田、江東、足立、葛飾、江戸川)の住民に対しては「警戒レベル5」発令時に、高速道路（首都高・京葉道）と一般道をつなぐ傾斜路（ランプ）が緊急避難先として、開放されることになりました。



江東区議会公明党は都と連携して、江東区の安全・安心なまちづくりを推進

都立・私立高校授業料の所得制限を撤廃した実質無償化の実現！

2024年4月から実施

江東区の小中学校給食費無償化を実現！

2023年10月から実施

シルバーパスの利用者負担軽減

令和7年度から住民税課税者への販売額が、
2万510円➡1万2000円

個人住宅にも闇バイト防犯対策

防犯カメラやモニター付インターホンなどの防犯設備の補助を推進中

公明党のネットワーク力で 江東5区の水害対策を前進

2019年、台風19号によって荒川は氾濫の危機に。ある水門では、氾濫危険水位まで、あと50センチに迫っていました。荒川の氾濫という最悪の事態は免れましたが、多くの人が避難し、不安な夜を過ごすことに。“何か対策はできないのか”一人の切実な声が、江東区議会公明党に寄せられました。その声を聞き、公明党ならではのネットワーク力を駆使し、都議会公明党、国会議員へと働きかけ「江東5区（江東・墨田・足立・江戸川・葛飾）大規模水害対策検討プロジェクトチーム」が立ち上がり、緊急提言が赤羽国交相（当時）に届けられ、水害対策が動き出しました。